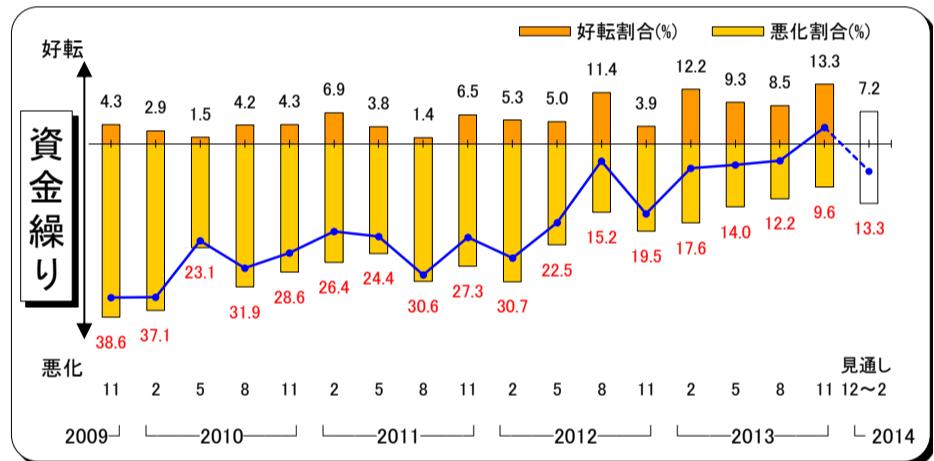
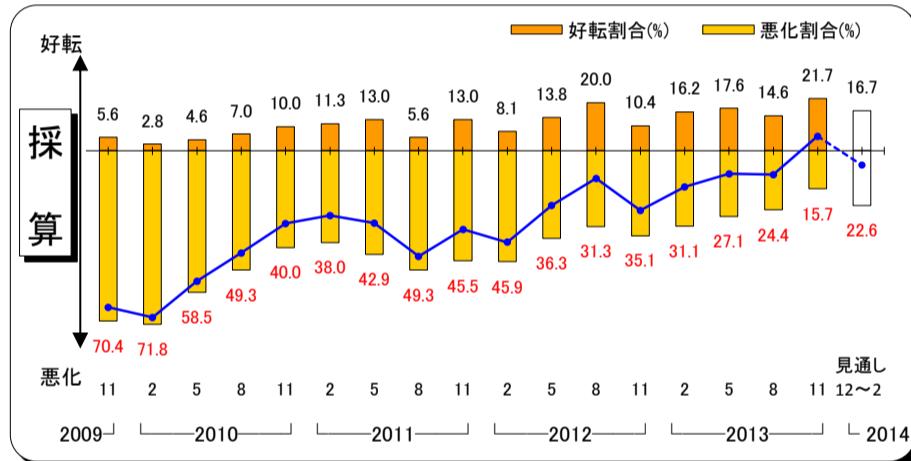
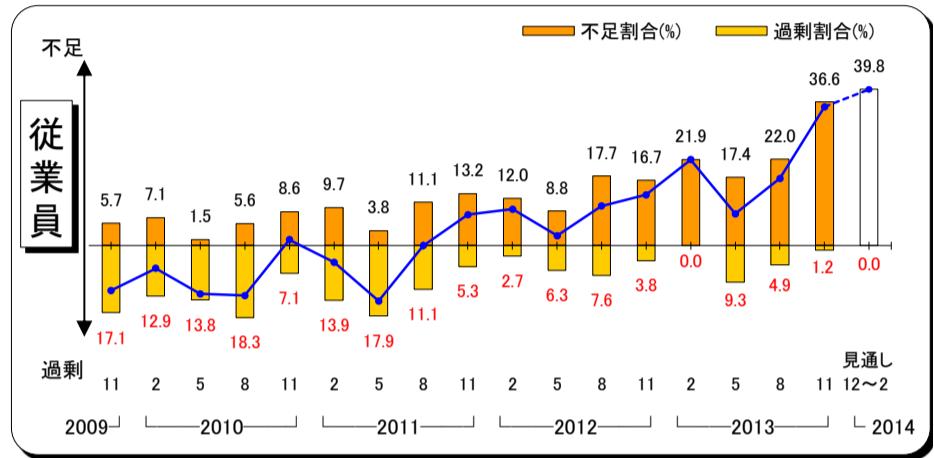
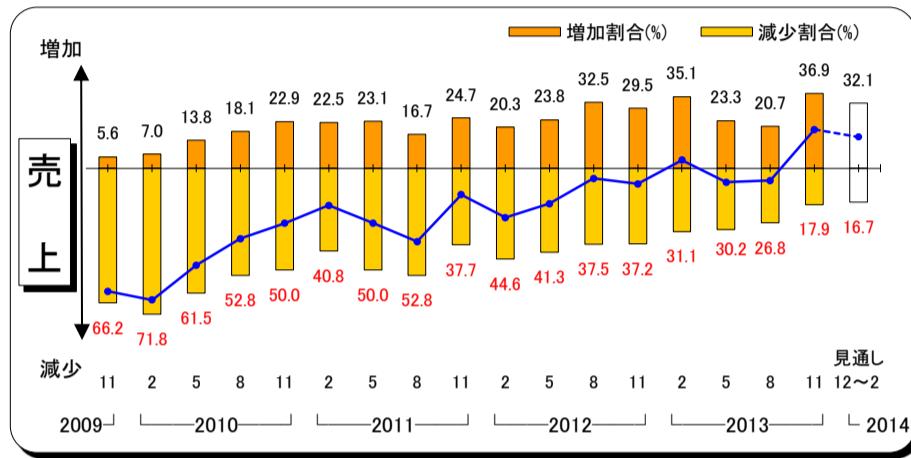
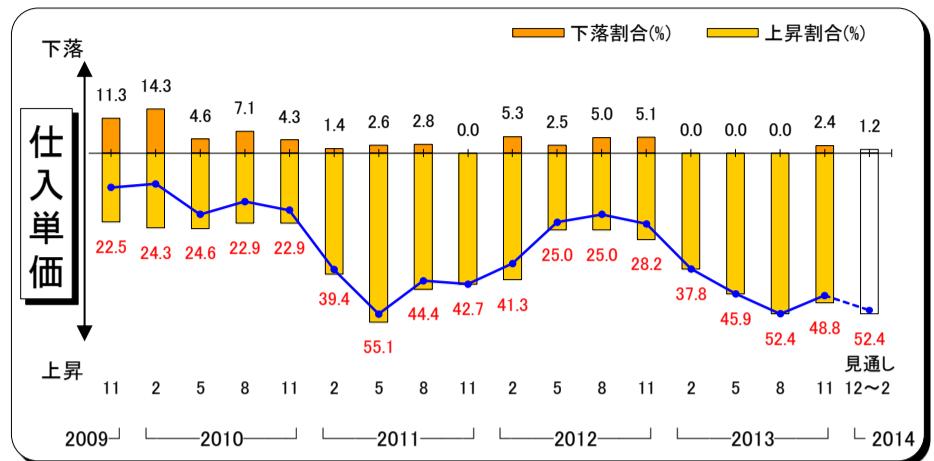
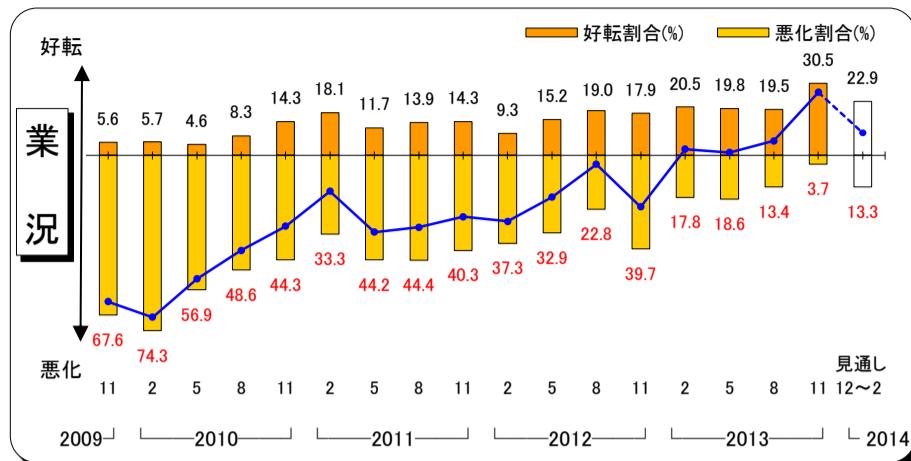


【建設業】①



【建設業】②

企業の声（順不同）

土木建築工事業	雇用の面において相変わらず中小の建設業に従事しようという人が希少で、求人はしても応募はなかなか無いのが実状です。
土木建築工事業	平成25年12月及び平成26年1月のみ短期間の受注有り。その先は不安定。
土木建築工事業	労働者（土木工事、鉄筋工事、型枠工事、ダンプトラック）の不足、資機材の不足から得意先の要望に応えられない。
土木建築工事業	来年3月頃まで仕事がありそうです。単価も上がってきている模様です。
土木工事業	現場資格保持者・作業員の確保に努めている。
造園工事業	増税前の駆け込み需要なのか、慢性的に職人、人材不足に陥っている。仕事があっても数がこなせないジレンマをかかえている。
とび工事業	受注単価の上昇が見込めない中で、一部の業種での人員・車両等不足の影響から、仕入額上昇を余儀なくされている。そのために見積額を引上げると工事受注が出来ない状況になってしまい、工事受注の目安がわからなくなっている。
内装工事業	先行き不明な状態。
内装工事業	現在は建築工事中の物件が多いため、仕上げの発注は少ない状態です。先行きは大体例年通りと思われます。
はつり・解体工事業	受注単価がなかなか上がらない。
電気工事業	東京オリンピックの開催が決まり、少し先になりますが、東京ビッグサイトの改修工事などが予定されているとの事です。展示会の電気工事を受け持つ自社としては、幕張メッセでの展示会開催が期待されます。
電気配線工事業	消費税値引きが多い。
管工事業	3月末の消費税（4月から8%）変動がどう影響するか？心配です。住宅業者は駆け込み需要が予想され、好調が予想されます。その後の落ち込みが不安ですね。
管工事業	インフラ整備が進み、設備投資に資金が向かうまでの時間が1～2年と思われます。国内生産の状況はそれからと思っています。
冷暖房設備工事業	建設業界は今後ますます人手不足が顕著になるであろう。若年者が業界に目を向け、定着するように、労働環境の改善や業界のイメージアップにも努めていかなければならぬと思う。